

瀘沽湖地域におけるモソ集落の位置と景観に関する研究

A study on the Relationship between Moso village Location and Landscape in Lugu lake area

ウイ
YU WEI

1. はじめに

(1) 背景

近代化の影響をあまり受けずに、独自の文化が残る少数民族が居住する地域では、観光による経済的利益を得ることを目的に、インフラ整備と同時に観光地開発に取り組むところが多い。その結果、かつては研究者などごく限られた人しか訪れない地域にまで一般の観光客が訪れるようになり、様々な影響を受けるようになった¹。少数民族の文化は、その居住する自然に拠るところが大きく、そうした文化を観光の対象にすることで、地域固有の観光が展開されることが期待される。そのためには、自然と文化を一体的な不可分なものとして考える必要がある。

瀘沽湖地域のモソ集落^{注1}には、今でも「母系社会」が残り、固有の生活風習を有している。モソ人はチベット仏教や地元ダバ教を信仰し、生活や信仰において自然崇拝がみられる。特に、女神山と瀘沽湖およびその中心にある後龍山は「聖なる山と湖」として崇拝されるなど、美しい景観と独特な文化を持っている地域である。

母系社会制度を中心とした「モソ文化」及び伝統建築や集落の保存、自然環境に関する選考研究は多くあるが、人文と自然を総合的にみた研究は少ない。黄耘(2014)は瀘沽湖地域を横断山脈地域^{注2}のモデルとし、人類学・地理学・建築学・自然科学などの研究方法や結果を文化空間および地理空間に展開させ、横断山脈地域の発展のパターンを明らかにした²。

1990年からは、地方政府の主導により「瀘沽湖の美しい景観を鑑賞すること」、「漢族とは違う習慣を持ったモソ人に会うこと」というモソ文化の表層的な特徴を対象にした観光がはじまった³。

現在瀘沽湖における観光は、湖もしくはモソ文化の一部を、それぞれ関連付けずに個別に対象として展開している。瀘沽湖地域の住民たちによる自然環境の捉え方およびそれと文化との関係を把握することで、地域の様々な資源の組み合わせおよび持続的

な利用が可能になると考えられる。また、これらを反映した観光プログラムを提供することで、観光客は、文化及び自然環境が一体化している当該地域への理解を深まることが期待できる。

(2) 目的

本研究は、瀘沽湖地域のモソ集落と信仰対象である自然空間との関係を、集落の立地条件と自然崇拝の象徴であるマニ塊の集落内での立地の関係、及びマニ塊からの景観から明らかにし、来訪者が対象地の文化を理解できる観光のあり方を検討することを目的とする。

(3) 研究方法と論文の構成

第一章では、本研究の背景と目的・意義を示した。

第二章では、文献調査や現地でのヒアリング調査から、対象地の歴史文化および自然崇拝の具体的な内容などを把握し、対象地におけるマニ塊での住民の信仰活動およびマニ塊の機能を整理した。

第三章では、各モソ集落の立地条件を把握したうえで、現地調査により集落ごとにマニ塊の数および集落内での立地状況を把握し、その立地及び様式と機能の関係を考察した。

第四章では、GISを用いて各マニ塊からの可視領域を算出するとともに、現地にてマニ塊から見えるか確認し、その特徴を整理するとともに三章の結果と合わせて、集落およびマニ塊の立地と景観の関係を考察した。

第五章は結論として、三章および四章で得られた結果をもとに、対象地における自然崇拝の象徴としてのマニ塊の特徴を整理したうえで、瀘沽湖地域の観光の現状及び課題を踏まえて、来訪者が地域文化をより深く理解できる地域観光のあり方を検討した。

2. 瀘沽湖地域の歴史文化と宗教信仰

(1) 対象地の基本状況

瀘沽湖はモソ語で「山奥の湖」という意味であり、中国雲南省麗江市寧浪県永寧郷と四川省涼山彝族自

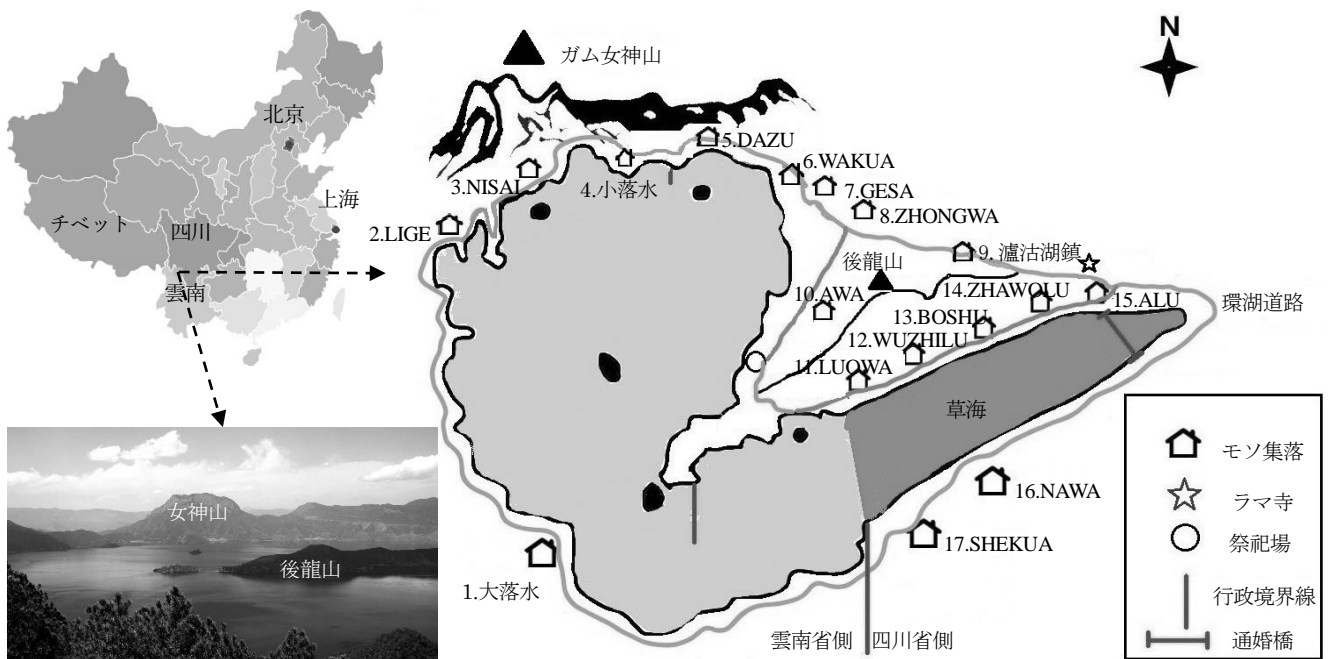


図1 瀘沽湖地図(Google Mapより作成. YUWEI)

治州塩源県左所郷の間にある高原淡水湖である。永寧郷は昔から茶馬古道^{注3}の宿駅であり、チベット・雲南省・四川省を結ぶ通商路の交差点であった。女神山などの山々に囲まれた瀘沽湖には、五つの島と湖畔に20以上の集落がある。少数民族のモソ集落は16、ナシ集落は1箇所あり、多民族が暮らしている地域である。モソ人の先祖「羌族」は遊牧民族であり、漢代に北から南へ移動し瀘沽湖地域に定住した⁴。

瀘沽湖地域のモソ人は、母系氏族や通婚などの生活風習を未だに有している。モソ人特有の原始宗教であり、先祖崇拜や精霊崇拜・自然崇拜三つの部分に構成される⁵ダバ教と、元代(12世紀)に瀘沽湖地域に伝来し、16世紀にはダバ教に代わって主導的な宗教になったチベット仏教の二重信仰が、モソ人の宗教信仰の特徴である。チベット文化では、山と湖は地域の保護神の御神体である。現在でもチベット高原とその周辺地域では神山聖湖を聖地とした宗教祭礼が一般的であり、瀘沽湖地域のガム女神山や瀘沽湖も同様である⁶。

(2) モソ人の自然崇拜

モソの創造神話(モソ神話)では、瀘沽湖はモソ人の先祖と深く関わり、「母湖」として崇拜されている。瀘沽湖北部にある女神山は山容が獅子に似ているため、瀘沽湖地域では獅子山とも呼ばれている。女神ガム(「ガム」はチベット語で白い獅子)は本来チベット地域の神であり、仏教伝来後、瀘沽湖地域では女神山も瀘沽湖とともに信仰の対象となった⁷。

モソ神話では、女神ガムの恋人である後龍男神は瀘沽湖中央にある後龍山にいとされており、後龍山も瀘沽湖地域では重要な崇拜対象である。

瀘沽湖地域には、山神・湖神・泉神・女性先祖を祀る転山(てんやま:「山神を祀る」という意)と転海(てんかい:「母湖の神様を祀る」という意)祭りがある⁸。農曆毎月の一・五・十五・二十五日に、モソ人は集落ごとに異なる経路を、徒歩や馬、車や船などの異なる手段で、歌や踊りを神様に奉納しながらマニ塊を巡る。湖沿いの各神山で線香を上げ、山神に供物を支え、平安、幸福を祈る。瀘沽湖地域で最も盛大な祭礼は、毎年農曆の七月二十五日に女神山で行う「転山」祭りである⁹。

モソ人は、毎日数回集落内のマニ塊の周囲を回りながら、神様に平安と豊作を祈っている。

(3) マニ塊の起源と役割

マニ塊とは、信仰者が積み重ねた呪文や絵などが書かれた石であり、チベット仏教とチベット自然崇拜の産物といえる。瀘沽湖地域では、チベット仏教を信仰しているモソ人が居住している集落にしかない。集落の入り口・山中・交差点・湖畔などに多く見られ、その主な役割は以下の三点と言われている¹⁰。

① 領域の明確化

伝説の中では、地域の保護神は自分の領域を他の神様と区別するためにマニ塊を作ったとされている。

② 平安祈願、お守り

チベット原始宗教の中では、天上・地面・地下を

象徴する山・湖・森・道にいるさまざまな神様に対して、マニ塊を設置することで畏敬の念を示し、そこに御神体を安置させることで、自然界の神や精霊などが人間を襲わないようにしていた。

③信仰のシンボル

チベットではマニ塊の形は山型が多く、山神の分身として考えられている。

モソ人へのヒアリングによると、瀘沽湖地域では湖神や山神など自然界にいる神をマニ塊に祀り、平安を祈願しているとのことであった。

このように、マニ塊は自然界の神々と強く関係しており、その象徴であり崇拝の対象である山や湖とマニ塊は知覚しやすい状況にあり、モソ人たちは、毎日マニ塊の周囲を回ることによって、そこからの眺めを体験し続けてきたと考えられる。

3. 各モソ集落の位置関係

(1)モソ集落の概況

本研究の研究対象は瀘沽湖沿いにあるモソ集落16集落とナシ集落1集落である。4集落が雲南省（全てモソ集落）、13集落が四川省である。対象地にあるマニ塊47個中43個は集落内にあり、ほとんどの集落には複数のマニ塊がある。集落外にあるマニ塊は、モソ博物館所有（2個）、個人（ホテル経営者）所有（1個）、瀘源崖^{注4}（1個）であった。

(2)集落内におけるマニ塊の立地及び分類

(i) マニ塊の立地 集落内におけるマニ塊の位置および道路との関係から、全47個のマニ塊は5タイプに分類された（表1）。集落中心タイプは、瀘沽湖南側の集落にあり、集落の中心かつ複数道路の交差点に位置している。出入口タイプは、内陸寄りの集落にあり、集落の境界部に位置している。集落後方の山タイプは、全域にあり、集落より高い山側に位置している。船着場タイプは、船着場のあるほとんどの集落にある。道路/湖畔タイプは、各集落を結ん

表1：集落内でのマニ塊の位置による分類

タイプ名	マニ塊数	集落数	集落・マニ塊の特徴
1. 集落中心	3	2	集落：瀘沽湖南側 マニ塊：複数道路の交差点に位置
2. 出入口	9	5	集落：内陸寄り マニ塊：集落の境界に位置
3. 集落後方の山	10	8	集落：全域 マニ塊：集落より高い位置
4. 船着場	8	8	集落：船着場のある殆どの集落
5. 道路/湖畔	17	4 集落外3	集落： マニ塊：環湖道路沿いに位置

表2：マニ塊の位置による集落の分類

集落		集落中心	出入口	集落後方山	道路/湖畔	船着場	計
西側	大落水			1	2	1	4
	LIGE			1	2	1	4
	NISAI			1			
北側	小落水				2	1	3
	DAZU				7	1	8
北東側内陸	WAKUA		1	1			2
	GESA		2	2			4
	ZHONGWA			1			1
	瀘沽湖鎮		2				2
	AWA		1	1			2
草海	LUOWA			2		1	3
	WUZHILUO					1	1
	BOSHU				2	1	3
	ZHAWOLUO					1	1
	ALU		1				1
南側	NAWA	2					2
	SHEKUA	1					1
その他					4		4
総計		3	7	10	19	8	47

でいる環湖道路沿いに位置しており、その数は最も多く、個人所有など集落外のマニ塊もある。

(ii) マニ塊の様式および素材 多くのマニ塊は、石が重ねたように丸い形に近い山型であり、各集落で多くみられた（29個）。一方、モソ家屋の様式の影響を受けている木造のマニ塊は少なく、北東側内陸の集落（GESA・ZHONGWA・瀘沽湖鎮・AWA）だけに見られた。また、下半部の座に角度があり、尖塔を有する塔式が、大落水と草海地域集落（BOSHU・LUOWA・ZHAWOLUO）の船着場、GESA・NISAIの集落後方の山、南方面集落中心（SHEKUA、NAWA）にあった。他に複数の山型マニ塊が密着している様式（複式）もあり、これは北東側内陸の集落（瀘沽湖鎮・AWA）の出入口とDAZUの船着場および道路/湖畔にみられた。これは、マニ塊の立地タイプから、交通安全の祈願を強くすると考えられる。

(iii) 集落別マニ塊タイプ数（表2） 湖の西側に位置する大落水・LIGE・NISAIには、集落後方の山にマニ塊があった。大落水およびLIGEには道路/湖畔にもマニ塊があった。これらの集落は他の集落から離れた場所や地形で分断された場所にあり、神山に対して集落の平安を祈念していると考えられる。

湖の北側に位置する小落水とDAZUには、道路/湖畔および船着場にマニ塊があった。これらの集落は地形の起伏が激しく、水路と陸路の安全を祈念していることがうかがえる。

湖から離れて内陸に位置しているWAKUA・GESA・ZHONGWA・瀘沽湖鎮・AWAの集落は、出入口もしくは集落後方の山にマニ塊があった。これら集落は比較

的地形が平坦であり、各集落の領域をマニ塊によって示していることがうかがえる。この中で唯一、集落が丘によって囲まれている ZHONGWA では入口にマニ塊はない。また、集落後方の山にマニ塊があり、神山に対して集落の平安を祈念していることがうかがえるが、古くから行政の中心であった瀘沽湖鎮には該当するマニ塊はなく、町であり統治者や貴族が多く居住することで、マニ塊の置き方が他の集落と違うことが考えられる。また、木造式のマニ塊はこの地域にだけあった。

草海地域の集落 (LUOWA・WUZHILUO・BOSHU・ZHAWOLUO) において、特に 2013 年以前に設置されたマニ塊は全て船着場にあり、草海を利用した水路の困難さがうかがえる。ラマ寺のある ALU には出入口以外にマニ塊はなく、ラマ寺の存在が集落および交通の安全を担保しており、マニ塊は不要だったことがうかがえる。

湖の東南方向にある集落 (NAWA・SHEKUA) では比較的広く農地開発ができ、農作物も充分確保できたことが考えられ、住民たちが集まることのできる公共空間としてマニ塊が設置されたと考えられる。

瀘沽湖地域においては、マニ塊には大きく集落内の公共空間としての役割、集落の領域を示す役割、集落の平安を祈念する役割、陸路もしくは水路の安全を祈念する役割のあることがうかがえた。これらは、集落の特徴に応じて定まっていた。こうした集落の特徴は地形に拠るところが大きく、マニ塊の性格は地形によって定まったといえる。

4. 各モソ集落のマニ塊からの景観分析

陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS) による観測画像を用いて整備された、標高データセット (30m メッシュ版) を標高データとして、Arcgis を利用して各マニ塊からの可視領域を算出した。可視領域から、集落ごとマニ塊ごとに信仰対象である女神山、後龍山、湖、草海のどれが見えるか (可視対象) を把握した。また、現地調査において実際に見えるか確認した。

(1) マニ塊のタイプと可視対象の関係

マニ塊から何が見えるか (可視対象) 全体の傾向をみると、後龍山が見えるマニ塊が多く、次いで湖となっていた。草海が見えるマニ塊は少なく、これは草海自体の立地によるものである (図 3)。

前述で分析したマニ塊の分類と可視対象の関係をみた (図 4)。

道路/湖畔や船着場などの交通に関するマニ塊

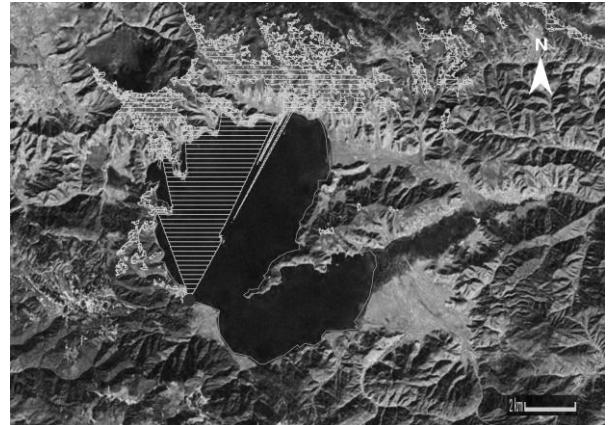


図 2: 大落水集落内のマニ塊からの可視領域

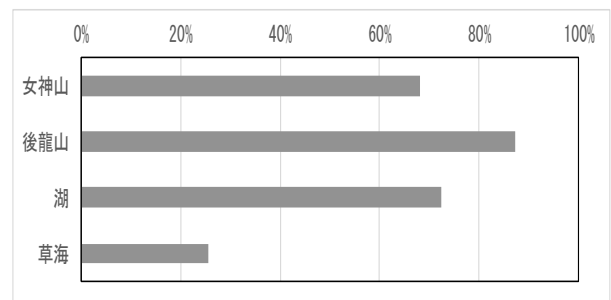


図 3: マニ塊全体と可視対象

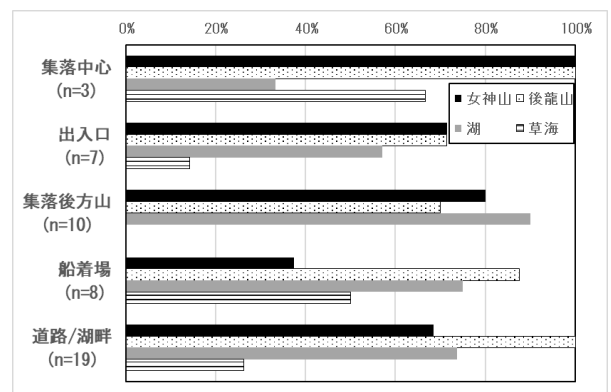


図 4: マニ塊のタイプと可視対象

からは後龍山が多く見えており、ほぼ湖の中央にある後龍山は、この地域において方向性を示す目印としての役割があることも考えられる。

また、現地で、マニ塊および集落や道路上から見える実際の眺めを確認した。

集落後方の山に位置するマニ塊からは、集落全体と湖および山が見え、湖や山との繋がりが強いことがうかがえた。特に一個のマニ塊を除いて、全てのマニ塊からは女神山が見える。

出入り口に位置するマニ塊からは、実際には湖や山が見えなかったり、建築物や樹木によって視界が

表3：集落ごととマニ塊ごとの可視対象

集落	出入口	道路/ 湖畔	船着場	集落中 心	集落後 方山
1 大落水		女神山 後龍山 湖	女神山、 後龍山 湖		女神山 後龍山 湖
2LIGE		女神山 後龍山 湖	後龍山 湖		後龍山 湖
3NISAI					女神山 後龍山 湖
4 小落水		女神山 後龍山 湖	女神山、 後龍山 湖		
5DAZU		女神山 後龍山 湖	女神山、 後龍山 湖		
6WAKUA	女神山 後龍山 湖				女神山 後龍山 湖
7GESA	女神山 後龍山 湖				女神山 後龍山 湖
8ZHONGWA					女神山 後龍山 湖
9 瀘沽湖鎮	女神山 湖				
10AWA	女神山 後龍山				女神山 後龍山
11LUOWA			湖、草海		女神山 湖
12WUZHILUO			後龍山 湖、草海		
13BOSHU		後龍山 草海	後龍山 草海		
14ZHAWOLUO			後龍山 草海		
15ALU	後龍山 草海				
16NAWA				女神山 後龍山 湖 草海	
17SHEKUA				女神山 後龍山	

取消線：肉眼では見えなかったもの

遮られたりしている。これはマニ塊から湖や山が見えることを重視しない結果であることが考えられ、出入口のマニ塊は、集落の領域を示すことが主な役割で、山や湖との繋がりとは強くないと考えられる。

道路/湖畔に位置するマニ塊からは、後龍山が見える。特に北側の地形の起伏が激しい地域においては、道路上からは必ずしも後龍山は見えないが、マニ塊からは見ることができる。

(2) 集落ごとの可視対象の特徴

マニ塊の位置による集落の分類結果と合わせて、集落ごとに可視対象の特徴を見た（表3）。

マニ塊からの可視対象は、マニ塊の集落内での位置ごとに異なる傾向のあることがうかがえた。どのマニ塊も女神山もしくは後龍山が見えるようになっている。

集落ごとにみると、例えば地形の起伏が大きい湖北側の集落であっても、マニ塊からは女神山・後龍山・湖を見ることができ、これらが見える場所にマニ塊が設置されたことがうかがえる。

全体的に、各集落のマニ塊は集落内において同様の位置にあることが多いが、湖北東側の内陸にある集落では出入口と集落後方の山にマニ塊があるものの、同一集落においては、可視対象は同じであった。また、現地ですべてのマニ塊からの眺めを確認した結果、同一集落であっても、出入口に位置するマニ塊からは信仰対象の山や湖が見えない場合が多いが、集落後方の山に位置する全てのマニ塊からは、女神山を見ることができた。

5. まとめ

(1) 分析結果

各モソ集落内におけるマニ塊の立地及び集落の特徴により、それぞれ、集落中心に公共空間の役割、出入口に領域を示す役割、集落後方の山に集落の平安祈念する場としての役割、船着場や道路/湖畔には交通安全を祈念する場としての役割があると推測できる。マニ塊の様式と、集落および集落内でのマニ塊の立地にも、一部関係がみられた。

マニ塊の分類と可視対象関係から、立地別に役割および可視対象の特徴も異なっていた。

マニ塊には色々な役割があり、それは集落ごとに異なっていた。マニ塊の役割の定まり方は、地形による対象地域内での孤立性（湖西側）や領域の明瞭性（湖東北側）もしくは平坦地での大規模農業運営の可能性（湖南側）、地形の起伏による安全性（湖北側）など集落に対する地形の影響によるところが大きいといえる。このように、集落の特徴は地形によるところが大きく、また集落ごとにマニ塊の役割は異なっていたことから、マニ塊の性格は地形によって定まったといえる。

マニ塊からの景観分析により、特に集落後方の山に位置し、集落の平安を祈念する場としての役割を果たすと考えられるマニ塊からは、1個を除いて集落全体と女神山が見えた。一方、出入口に位置し、集落の領域を示す役割を果たすと考えられるマニ塊からは、湖や女神山・後龍山は見えなかった。マニ

塊からの景観は、その果たす役割ごとに異なっているといえる。ただ、出入口以外に位置するマニ塊からは、女神山・後龍山のいずれかが見え、いずれの集落も女神山もしくは後龍山の見えることが重視されていたと考えられる。

上述のように、集落内におけるマニ塊の置き方で信仰対象である山と湖への需要を満足することで、モソ集落の位置は信仰対象である山と湖の見えることを重視するといえる。

本研究では、可視領域の算出による可視不可視だけを見た。ただ、女神山が山容によって湖側では眠る女神と、背面からは獅子と見えるため、女神山または獅子山と言われているように、山や湖がどう見えるのかについても分析していく必要がある。

(2) 観光の課題

現在瀘沽湖地域観光は、モソ文化(主に母系社会制度に関する部分)および湖の眺めに焦点を置かれているが、自然と文化を分けてそれぞれ観光商品にしており、内容は自然資源に依存するところが大きく、相互に関係し合ってきた伝統文化や自然環境の保護に有効とはいえない。

また瀘沽湖は四川省と雲南省の境界線に位置し、両側の政府は各自の政策や計画を実施しており、地域全体の観光開発を分断してしまっている。

瀘沽湖地域での自然観光は「湖」を一周するなど「湖」が見えることを重視しており、モソ文化との関係が薄い。また、交通手段も限られているので、草海地域の遊歩道などの使用は難しい。

(3) 提言

課題で述べたように、雲南省側と四川省側は各領域の計画だけではなく、集落ごとの違いや共通することを体験させるために、瀘沽湖地域全体での観光計画を改めて考え、各集落の特徴を明らかにしたうえでプログラムの開発などが考えられる。

本研究では、地形とマニ塊に集落内でのマニ塊の位置が同じエリアごとの違いをみることができた。このような違いは、集落ごとに文化や風習なども異なることも考えられる。今後は対象地域の文化・風習を「モソ文化」と一括りにしないで、集落ごとの文化や風習を改めて把握し、エリアごと集落ごとに計画を策定していく必要もある。

現地で「湖」だけではなく、「山」も重要な景観対象であり、特に、後龍山の祭祀場から女神山は湖に横になっている女性のような様子が見えるため、「湖」を一周し、各集落もしくはエリアでの、山お

よび湖(湖や草海)の見え方を踏まえるべきである。

参考文献

- 1)宮本佳範：「観光対象として“持続すべき文化”に関する考察-持続可能なエスニック・ツーリズムへの視点-」、東邦学誌 第40巻第1号、pp.19-33、2011
- 2)黄耘：「瀘沽湖地域人居环境文化演進」、中国建築工業出版社、p3、2013
- 3)金繩初美：「中国雲南省・瀘沽湖における観光化と民族意識の相互作用」、北九州市立大学外国語学部紀要 131号、pp.23-59、2012
- 4)Charles McKhann. 徐志英、張偉訳：「納西——摩梭の親属制度及其文化」、云南社会科学、P17-44、2000
- 5)同上
- 6)英加布、域拉奚达与隆雪措哇：「藏伝山神信仰与地域社会研究」蘭州大学、pp16-19、2013
- 7)同上
- 8)李錦：「瀘沽湖-摩梭母系社会」、四川民族出版社、pp.38-49、2014
- 9)同上
- 10)馬昌儀：「敖包与玛尼堆之象征比較研究」黒龍江民族叢刊、pp.106-112、1993

注

- 1)モソ人は中国政府が承認した55の少数民族に属されていなく、ナン族の支族となされているので、ここで「モソ族」の代わりに「モソ人」を使う。
- 2)横断山脈(おうだんさんみやく)は中国南西部の山脈。チベット高原(青蔵高原)の南東に位置し、四川省西部、雲南省西部、チベット自治区東部の交わるあたりを南北方向に走っている山脈の総称である。瀘沽湖は横断山脈の中央部にあります。横断山脈地域は人文地理の概念でもあり、世界中でも珍しく数多くの少数民族が居住し、多様な文化、言語、宗教がある。
- 3)茶馬古道：唐の時代から雲南省のお茶をチベットの馬と交換したことから名付けられた貿易ルートである。
- 4)瀘源崖：文字通り「瀘沽湖の源である崖」という意味であり、瀘沽湖の地下水源の補充口である。モソ創始神話では、瀘沽湖の水はこの崖下から入ってきたとされている。